視察日時	令和6年10月3日（木） 10時00分～11時30分
視察先	愛知県岡崎市 新香山中学校（説明：教育委員会学校指導課）
視察項目	校内フリースクールF組に関する取り組みについて
視察概要	<p>〔岡崎市立新香山中学校の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市との境となる岡崎市北部に位置する。 ・生徒数は496人。（通常学級14クラス、特別支援学級2クラス） ・開校は、令和6年度で41年目となる。 <p>〔F組とは〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F組は、岡崎市教育委員会の独自の制度である。 ・「F」には、Freedom、Fan、Fit、Future、Flexible等の意味が込められている。 ・F組では個に応じた支援を行い、生徒が自分のペースで学習等に取り組み、自分自身で明るい未来を見通し、多くの人と関わり合いながら、社会で活躍する力をつける支援・応援をする。 <p>（1）校内フリースクール「F組」の概要</p> <p>F組は、心理的等の要因により登校したくてもできない、または教室に入ることができない生徒に、社会的な自律に資するための支援をする場所である。</p> <p>（2）F組設置の経緯</p> <p>不登校になった一部の子供達が学校を去り、民間のフリースクールに通い始めたことをきっかけに、公立中学校における長期不登校者への取組として、以下の理念のもと令和2年度から始まった。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①適応するのは子供ではなく学校である。 ②多様性を受け入れられる学級にする。 ③いつでも子供達を温かく迎える体制にする。 ④通常学級と同じ、1つの学級として扱う。 ⑤教室復帰でなく社会的自立を目指す。 <p>（3）F組の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度：中学校3校への設置からスタート ・令和6年度：市内全中学校20校に設置。小学校でも3校で開設。

(4) 校内フリースクールにおける全体構想

- ・多様な子供一人一人の理解に努め、その可能性や能力を伸ばす。
- ・教室復帰だけでなく、社会的な自律を目指し、社会で生きる力を育むことで、将来、子供が幸せな人生を送ることができるようにする。
- ・通常の学級、特別支援学級と同等の扱いとする。
- ・「適応指導」というネガティブなイメージとならないよう「フリースクール」と呼ぶ。

(5) 校内フリースクールの機能

- ・未然防止：全ての児童生徒が対象となる。
⇒全体の長期欠席を防ぎたい、新たな1人を出さない！
- ・初期対応：兆候のある児童生徒が対象となる。
- ・自立支援：不登校の状態にある生徒が対象となる。

(6) 具体的な活動

・国語や数学等の学習：これまでの学び直しや基礎固めを行い、学習に対する自信をつけていく。また、自己肯定感を高めたり、コミュニケーションを図る活動も重視する。

・タブレット端末の効果的な活用：i P a dによって、オンラインでの授業参加が可能である。

例) 中三が中一の授業に参加したり、学習ソフトを活用して学び直しができる。

⇒生徒が自分たちの望むタイミングで取り組める。

・地域の方との交流：生徒の世界観を広げるために、地域の力を借りて、様々な人と出会い、活動する場づくりを計画している。

⇒学校だからこそ、いろんなことができる。

(7) F組の成果

・長期欠席者（児童・生徒）の出現率を抑制することができた。

⇒国・県における不登校出現率は、増加傾向にある一方で、岡崎市では、校内フリースクール「F組」を設置して以降、不登校生出現率の増加を抑制することができており、差は拡大している。

・新規の長期欠席生徒数は減少している。

⇒全体の不登校数減少を考えた時、新規数の減少がカギとなる。令和5年度は令和4年度と比較し、約70人減少している。

・F組を活用している生徒が継続的に登校している。

	<p>⇒F組を活用している生徒の約60%が、週3日以上登校できている。</p> <p>[令和4年度における成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の表情が明るくなり、目標を持っていきいきと学校生活を送る生徒が増えた。 ・子供の特性を理解した上で、組織的・性格的に個々への支援を充実させることができた。 ・経験豊富な専任教職員の配置とフリースクール支援員の常駐により子供は安心して学校生活を送ることができた。 ・ICTを活用した遠隔授業を受けることで、教室に復帰した子供もいる。 ・フリースクール配置校では、前年度比で長期欠席生徒数が減少した学校もある。 <p>[質問事項 Q&A]</p> <p>Q. 現在どれくらいの生徒が利用しているか伺う。</p> <p>A. 市内で350人ほどが利用していて、小学生が増えている。</p> <p>Q. 特別支援学級とのかねあいについて伺う。</p> <p>A. F組では困り感のある子供を受け入れている（通常学級のほか、外国籍の子供等）</p> <p>Q. 人や物に係る予算について伺う。</p> <p>A. 独自の取組なので国の支援はない（目的外使用に当たる）。支援員は市の予算で、県からF組に対して加配はない。初期設備に対する費用に市の予算を導入している。</p> <p>Q. F組に通う子供たちの進路はどうなっているか伺う。</p> <p>A. 全日制、私立高校、通信制の高校、専修学校などへ進学している。</p>
<p>所 感 (意見・感想・今後の課題等)</p>	<p>校内フリースクール「F組」は、令和2年度にパイロット校3校で開設されて以降、令和5年度には全中学校で設置されている。まずは、長期欠席者を出さない、未然防止として「F組」が機能している様子が見えた。実際にF組の様子を拝見したが、生徒は何時に来なければならないという概念に捉われず、状況に応じた登校時間・下校時間になっていて、それぞれがやれること・やりたいことを支援・応援してもらっている雰囲気が伝わってきた。また、通常学級へ「いってきます」と明るい表情で出ていく生徒、「行ってらっしゃい」と送り出す教職員の信頼関係のようなものも感じられた。</p> <p>F組では、リラックスできるような空間が作られており、それぞれが目</p>

<p>的に応じて過ごせる工夫もされていた。全国で約34万人もの不登校の児童・生徒がいる現状において、学校の中にフリースクールが設置されることは、子供たちの居場所や学習機会の確保の一つとして素晴らしい取組であると思った。他自治体で同じような校内フリースクールを導入するには、やはり専任教職員や支援員の人員確保のための予算が一つネックになると思う。国や県の支援がないと現実的には難しいと考える。</p>

報告者 市民文教常任委員会 佐藤 麻里